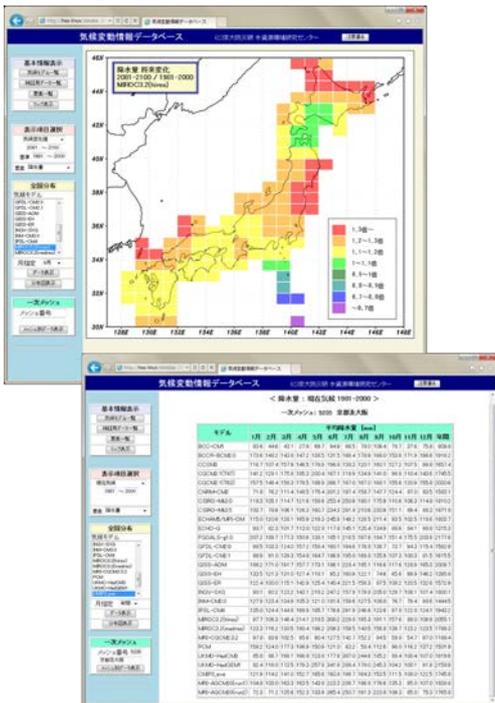


愛媛大学大学院農学研究科 研究シーズ集 (研究者情報)

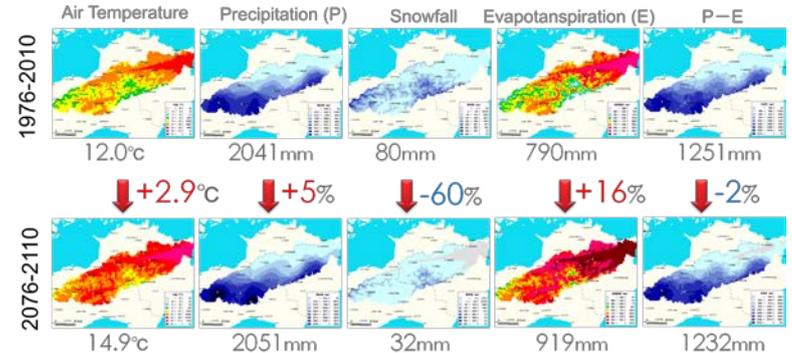
氏名	佐藤 嘉展	専攻	生物環境学
		コース	地域環境工学
職名	准教授	専門分野	地域水文気象学
メールアドレス	sato@agr.ehime-u.ac.jp	その他連絡先	089-946-9882
研究課題	・気候変動に対する先行適応に向けた流域スケールでの環境変動予測・災害影響評価およびリスク情報の創出		
キーワード	・気候変動、地球温暖化、河川、流域、防災、影響評価、適応策、リスク、水資源管理、洪水、渇水		

研究内容：

IPCC第4次および第5次評価報告書で地球温暖化予測情報として用いられている最新の高分解像度全球気候モデル(GCM)の出力結果を用いて、将来の流域環境(気温、降水量、降雨量、降雪量、融雪量、蒸発散量、水資源賦存量)の変動予測情報を1kmメッシュスケールで構築し、それに基づいて、分布型流出モデル(流域環境評価モデル: Hydro-BEAM)による流出解析シミュレーションを実施する。これにより、流域(全国1級水系が解析対象)スケールでの河川流況と河川水温の時空間的な変化を予測し、河川災害(洪水・渇水リスク)の変動や河川生態系への影響評価を試みる。水資源管理基本計画(フルプラン)や、河川整備基本方針、河川整備計画の見直し、地域防災計画や維持流量、期別水利権の設定、発電計画の見直しなど、地域の将来計画に資する基盤情報を創出することを目的とする。



■気候変動影響評価 (四国 吉野川流域の解析事例)



■河川流量 / 河川水温の解析結果



参考文献：佐藤嘉展ら(2009)「気候変動に対する先行適応のための流域スケールでの洪水および渇水リスク評価」
京都大学防災研究所年報 52B:573-586

提供可能な資源・技術・その他

- ・気候変動情報データベース (<http://mhri.dpri.kyoto-u.ac.jp/database>)
- ・分布型流出モデル(流域環境評価モデル Hydro-BEAM) 実行支援システム (HBMsys)

プロジェクト研究希望テーマ

- ・気候変動に対する、水災害・河川災害、水資源管理分野での影響評価および適応策の検討
- ・流域水資源量の実態把握と将来変動予測